

初期の灯台守広場跡

初代の灯台守広場は太平洋に浮かぶ崖の縁に位置し、海により少し隔てられ灯台そのものからは切り離されています。ここにある家は、灯台と一緒に 1871 年に英国人により設計・建設されたものです。一階建ての石構造で、面積は約 70 m²。田尻の村にむかって東に面していました。この住人は、手つかずの自然と断崖に囲まれ孤立していました。そしてこの時代の習わしにより、ここで働いていた日本人家族とイギリス人家族は別々に暮らしていました。今では石壁の一部しか残っていませんが、初代の灯台守広場は重要な歴史的・文化的史跡です。

佐多岬灯台

大隅半島最南端の沖合にある小さな島に鎮座する佐多岬灯台は、日本最古の西洋式灯台の一つです。沿岸水域の安全性向上を目的として結んだ外国勢力との条約を履行するために、明治時代（1868～1912 年）に日本の領海が外国船に開放されてから建てられた数々の灯台の一つです。佐多岬灯台は、上海や遠方の港に向かう途中に佐多岬を通った船を守ってきました。設計・建設を手がけたのはスコットランド人のリチャード・ヘンリー・ブラントン（1841～1901 年）。当時の構造は鉄でつくれ、1871 年 10 月に完成しました。

灯台守が灯台まで行くために、本土から灯台のある岩だらけの大輪島にかかるゴンドラが 2 台作られました。1 台目のゴンドラは佐多岬最南端から中之島とよばれる小さな島まで伸び、2 台目は中之島と大輪島を結んでいました。

佐多岬灯台は 1945 年の戦時中の攻撃により崩壊しましたが、1950 年にコンクリートで再建されました。今でも使われていますが、1985 年からは無人となっています。